

公益財団法人 日本体操協会 2019 年度政策方針

スローガン 「 restart (再出発)」

(はじめに)

今年は東京五輪に向けて真の勝負の年です。すでにその予選が昨年より始まっておりませんが、今年の世界選手権大会でほぼ出場権が決まります。昨年より更に高い目標と高い志で精進してさらに進んでいかなければなりません。我々も全力でサポートしていきます。

昨年のスローガンは「一致団結」でした。東京五輪へ体操協会全体で一致団結し上昇したいという思いでスタートを切りましたが、ご存知の通りパワハラ問題などで思うように団結することが出来ませんでした。体操界だけでなくスポーツ界全体に大変大きなダメージを与えてしまいました。関係者の皆様には多大なご心配、ご迷惑をおかけしたことをここでお詫び申し上げます。

しかしこのような状況でも、体操男子団体で東京五輪出場権の獲得、女子では史上初の村上選手が個人総合にて銀メダル獲得、新体操も 3 年連続で団体種目別メダル獲得、女子トランポリンでは、史上初の金メダルをシンクロナイズド競技で獲得と活躍してくれました。私達は東京五輪に向け「restart (再出発)」の心で取り組んで参ります。

(2018 年の成績と反省)

男子体操においては、最大の目標で東京五輪団体の出場権獲得が出来ました。しかしながら、個人総合ではメダル獲得が出来ず、また種目別でも金メダル獲得という目標でありましたが達成出来ませんでした。

女子体操においては、個人総合では村上選手が史上初の銀メダル獲得と素晴らしい成果を残してくれました。またゆかの種目別でも 2 年連続でメダル獲得をしました。団体では、怪我人もあり、6 位となり目標であった東京五輪の出場権を獲得することが出来ませんでした。

新体操においては、ルールが変更になり D 得点が高くなる中、団体総合 5 位となり五輪団体出場権獲得が出来ませんでした。しかし団体種目別フープで銀メダルを獲得し、目標を達成出来ました。

男子トランポリンは、10 大会ぶりに個人、シンクロナイズドとも決勝に進出することが出来ず非常に残念な結果となり、今年から始まる五輪予選に不安を残す結果となりました。

女子トランポリンの目標は、昨年、初メダル獲得から、今年はシンクロナイズド競技で史上初の金メダルを獲得する快挙を成し遂げました。個人でも史上初の 2 名が決勝進出するという成績を収めました。

今年は、全ての競技で勝負の年となります。現状を真摯に受け止め、弱点を強みに変えて、再出発し国民の皆様の期待に応えなければなりません。

東京五輪への道すじ1 - 2019年世界選手権大会目標 -

2019年の各世界選手権大会の目標は次のとおりです。

男子体操 団体金メダル奪還

女子体操 団体総合3位以内、個人総合、種目別で複数メダル獲得

東京五輪団体出場権獲得

新体操 団体総合メダル獲得、団体総合、種目別メダル獲得、個人総合入賞

東京五輪団体・個人出場権獲得

男子トランポリン 個人競技 決勝進出 東京五輪出場権獲得（個人）

女子トランポリン 個人・団体・シンクロメダル獲得、東京五輪出場権獲得（個人）

東京五輪でのメダル獲得において、重要な2019年であります。好成績を上げるようレベルアップして、世界選手権大会に向けて再出発して進んで参ります。

東京五輪への道すじ2 - 2019年大会について取り組み -

2020東京五輪に向けて、今年、来年とも国際大会を誘致しており大いに盛り上げて参ります。

- ・2019体操ワールドカップ東京大会（武蔵野の森総合スポーツプラザ）

開催日 2019年4月7日

- ・第34回世界トランポリン競技選手権大会（有明体操競技場） *五輪予選大会

開催日 2019年11月28日～12月1日

- ・第27回世界トランポリン年齢別大会（有明体操競技場）

開催日 2019年12月5日～12月8日

東京五輪への道すじ3 - 2020年大会について取り組み -

- ・2020体操ワールドカップ東京大会（有明体操競技場） *五輪予選大会

開催日 2019年4月4日～5日

- ・2020年体操アジア選手権大会（有明体操競技場） *五輪予選大会

開催日 2020年5月2日～5月5日

- ・2020年トランポリンアジア選手権大会（有明体操競技場） *五輪予選大会

開催日 2020年5月6日

- ・2020年新体操アジア選手権大会（有明体操競技場） *五輪予選大会

開催日 2020年5月8日～5月9日

東京五輪でのメダル獲得に向けて、選手の高いパフォーマンスは勿論、トップレベルの戦いをライブでの観戦を体験して頂き、体操ファンの拡大と選手のサポートをして参ります！

(一般体操)

現在まで、都道府県の体操協会が主となって行う体操祭は継続年数も長く、安定期に入ってきました。まだ実施されていない地域はありますが、今後の取り組みが期待される場所です。

さて、日本全国には様々な「・・・体操」という名称のもとで、多くのご当地体操が実施されております。その理由としては、体操というキーワードが「健康になる運動」との認識がされて国民に深く根付いているからではないでしょうか。その認識こそ一般体操の原点でもあります。

このように一般体操は、国民の健康維持の基本的な運動を形成する役割を担っています。

一般体操委員会では、日本全国での健康作りに貢献する体操プログラムを作成するプロジェクトを組織して基本案を作り進めております。更に、このプログラムは2020東京五輪を応援する体操作品として、全国各地で実施できるよう計画しております。

この目標に向けて今年度は全国の体操協会のご協力も頂きながら、更なる一般体操の普及発展に邁進していきます。

(アクロ体操)

アクロ体操委員会では、昨年度、今年度に全国的に実施してまいりました演技会やワークショップにおいて、各分野の指導者の方々と巡り会えたことで各組織との結びつきが強くなりました。しかしまだまだ登録人数が少なく、普及活動を全国に展開し登録人数を増やして行かなければなりません。

アクロ体操の普及のためこれまで男子新体操の方々とは融合を目指して進めてまいりましたが、規則の異なる競技の融合は選手達への負担も多く難航しております。その経験とこれまでの各組織との結びつきを生かし、アクロ体操に興味をもつ選手の発掘とともに特性の近い部分のあるエアロビックとの連携をして参ります。アクロ体操の選手獲得及びエアロビックの競技力向上(アクロバットエレメンツ、リフト技に関する技術指導)に協力し、まずは合同全日本選手権大会の開催を目標に進めて参ります。

アクロ体操はユースオリンピック種目に入り、注目を集めております。FIG渡辺守成会長の年頭挨拶にもございますように日本国内でもアクロ体操のファンを増やして行くことが普及に繋がると考え、2019年度も各地で演技会を実施し選手の発掘基盤を作って参りたいと思います。

(男子新体操)

男子新体操は近年メディアで取り上げられることも多く、特に「2016年リオデジャネイロ・オリンピック」の閉会式にて男子新体操チームが演技披露を行ったことで、その注目度は更に高まりました。子供の体操教室、体育教室・タンブリング競技・エアロビック競技などとの融合も考慮してまいります。

数年前より男子新体操（団体）とアクロ体操との融合を推進してきました。また国体復活においては、男子新体操未普及県への普及が最大の課題であり、積極的な普及活動が不可欠であり、引き続き取り組んで参ります。

男子新体操は世界的には発展途上のスポーツではありますが、日本国内においてはすでに70回を超える全日本選手権や第一回の国民体育大会（1947年）から実施されている日本の伝統的なスポーツの一つです。男子新体操が持つ日本独自の文化を継承し広めることに基軸を置きながらも、世界に羽ばたくチャンスには目を光らせ、まずは国内での普及、発展を最優先事項として取り組んで参ります。

（組織ガバナンス・指導における暴力、セクハラへの対策強化）

2018年は大きく揺れた年でありました。パワハラ問題がメディアで大きく報道され、国民からは厳しい目でみられ、協会に大きなダメージを残しました。協会では「指導における暴力、パワハラ、セクハラ撲滅運動」に取り組み始めて5年目の年でしたが、結果的には、しっかり浸透しておらず監視する環境づくりが機能していませんでした。そのため、3つの基本方針を実現して機能させ撲滅させるために、問題点の洗い出しを徹底的に行い、ガバナンス、コンプライアンスの強化を図った組織づくりをいたします。今回の大きな反省は、問題の早期対処と指導者の指導方法の問題が挙げられています。未然に防ぐ通報システム作りを地域から徹底していかなければなりません。また、指導者の認識も変えていかなければなりません。

上記の反省を踏まえ、本協会の「3つの基本方針」を実現して暴力・パワハラの撲滅をしなければなりません。

第一に「暴力、パワハラ、セクハラが発生しない地域全体で監視する環境づくり」

第二に「指導における暴力を無くす指導方法の享受」

第三に「永久追放を追加した罰則の強化」

本協会と加盟団体で協力して厳しい姿勢をもって取り組み続けて参ります。

（地域委員会）

地域委員会の取り組みとして引き続き『ビジネススクール』『U-12体操競技会』のさらなる充実に取り組んで参ります。また今年度は、念願のトランポリン競技が茨城国体で開催されます。これは皆様のご理解、ご協力のおかげであります。引き続き選手強化・指導者の育成・審判の育成等を早期にかつ真剣に取り組んでいかななくてはなりません。

また男子新体操の国体参加については、全国の関係者と協議しながら、トランポリンを絡めた対策を検討していきます。2年前より取り組んでいる障がい者児童への取り組みも講演を繰り返す中で、関心がいかに高いかを実感しているところで、地域における障がい者児童への普及をさせて参ります。将来的には、国体で実施されている障がい者スポーツ大会への参加、さらには国際大会への参加に繋がればと考えます。

東京五輪事前合宿も、出場国が今年には大半が決まることで加速して参ります。この五輪のムーブメントにのり、地方でも体操の発展と普及につなげることができるように、日本体操協会・地域委員会が連携を取り対処して参りたいと考えています。

最後に、去年はパワハラ問題がメディアで大きく報道され、国民からは驚きと深い関心が寄せられました。この問題を真摯に受け止め、この様な問題を二度と起こさないためにも、地域で早期発見に努めて「指導者の心構え」を説き、浸透させていかなければならないと考えています。

(国際体操連盟との取り組み)

いよいよ、2019年は大きな大会が日本で開催されます。4月の体操ワールドカップ、そして11月には、有明体操競技場で第34回世界トランポリン競技選手権大会が35年ぶりに日本で開催されます。国際体操連盟とも連携を密にして、国際大会での日本選手の活躍を期待します。

またFIG 渡辺守成会長が、昨年11月に、IOC委員に推薦され委員になりました。これは体操界だけでなく、日本のスポーツ界にとっても画期的なことで大変嬉しく思う次第であり、我々も全力で協力して日本体操全体でサポートして参りたいと思います。今年も国際大会も日本で開催することもあり日本の存在感をアピールする年になります。

また東京五輪事前調整合宿地の誘致活動も昨年以上に活発になり、国際的な貢献活動も増えてまいります。スポーツでの友好を深め、地域の体操の活性化に一層役立てて参ります。

(むすび)

東京五輪まで1年半となりました。今何が出来るか、今何をしておかなければならないか、を再確認し、あらゆる面で去年の出来事を反省し新しいスタートを切らなければなりません。

東京五輪での選手の活躍と成功は我々の願いです。そのため我々の今年のスローガンは「restart (再出発)」として、新しい気持ちで出発していかなければなりません。どうか皆さんの力をお借りして、新しい体操ニッポンを築き上げていきたいと存じます。

以上、2019年度公益財団法人日本体操協会政策方針を発表いたしました。皆さん、力を合わせて一緒に頑張りましょう。